

15 生殖医療センター

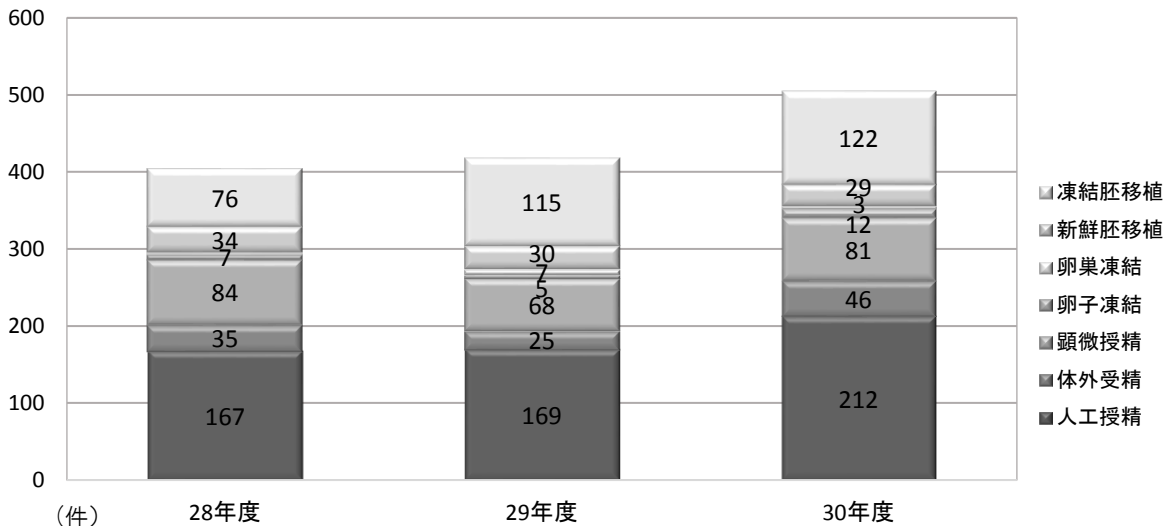


生殖医療センター設立後、6年が経過した。不育症や反復着床不全の患者さんに対する検査を充実させ、少しでも多くの患者さんと妊娠・出産の喜びを分かち合えるように努力していきたいと考えている。また、平成28年1月に設立された「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」により、29年度には、卵巣凍結：7件、卵子凍結：5件施行であり、30年度は、卵巣凍結：3件、卵子凍結：12件であった。

若年がん患者さんの妊孕性温存治療は、がん治療を行う前にいかに早期に行うかが重要であると考えている。そのためには、卵子凍結・胚凍結・卵巣凍結を柱とし、それぞれの患者さんにあった妊孕性温存治療を考え、早期に原疾患の治療を行えるように努めていく。妊孕性温存が目標ではなく、原疾患を克服し、元気な子供を出産してもらうことを目標にこれからもさらなる充実を図りたいと考えている。そのために、がん生殖外来は平日11時から毎日行っている。また、患者数の増加を図るため午前診療・午後診療では常時、午前には1名・午後には2名の医師で診療している。大学病院のため合併症のある患者さんの不妊治療症例が多いのが特徴であるが、高年齢から若年齢の不妊患者さんまで幅広く診療している。また多発子宮筋腫、子宮内膜症などの不妊原因となりうる器質性疾患を有する患者さんに対しては、腹腔鏡や子宮鏡などの内視鏡手術を中心とした手術療法を実施しており、一定の治療効果を認めている。さらに、29年度に導入された卵管鏡手術装置を用いて卵管性不妊の患者さんの自然妊娠の可能性を高めるべく診療にあたっている。

今後もさらなる生殖医療センターの発展を目指して邁進していきたいと考えている。さらに、生殖医療・産科・婦人科・遺伝・出生前外来と全ての部門で密に連携をとれる大学病院の強みを生かし、「ここで治療したい」と思ってもらえるような診療を心がけていく。

15-1 年度別人工授精・体外受精・顕微授精・卵子凍結・卵巣凍結・胚移植（新鮮・凍結）（合計505件）



※28年度より卵子凍結と卵巣凍結の項目を追加。

15-2 年度別新規患者数（合計162人）

